

SANUPS

UPS管理システム

SANUPS SOFTWARE

インストールガイド

for Windows

SANYO DENKI

- ※ **Windows**は、米国**Microsoft Corporation**の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ※ その他の製品名、社名は各社の登録商標または商標です。
- ※ **Microsoft Corporation**のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

おことわり

- (1) 本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を、許可なく複製、転載することは、かたくお断りいたします。
- (2) 本製品の内容につきましては万全を期して検査を行っておりますが、万一、お気づきの点がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。
- (3) 本製品の内容は、予告なく変更される場合があります。
- (4) 本製品の運用に際しては、本取扱説明書をよくお読みになって、機能を理解した上でご使用ください。本製品を使用したことによる結果につきましては、責任を負いかねますので、ご了承ください。

お問い合わせ先

山洋電気株式会社 パワーシステム事業部 設計第2部
UPS 管理ソフト ユーザ係
FAX 0268-37-1732
E-mail sanguard_support@sanyodenki.co.jp

目次

1. はじめに.....	1
1.1 動作環境.....	1
1.1.1 ハードウェア.....	1
1.1.2 ソフトウェア.....	1
2. インストールを行う前に.....	3
2.1 UPSの動作モード確認.....	3
2.2 UPSとの通信接続.....	3
2.3 コンピュータの接続方法の確認.....	4
3. インストール.....	6
3.1 インストールプログラムの起動.....	6
3.2 製品のライセンス.....	7
3.3 ユーザ情報の入力.....	8
3.4 インストール先フォルダの確認.....	8
3.5 プログラムフォルダの選択.....	9
3.6 ファイル コピーの開始の確認.....	9
3.7 ファイルのコピー（インストールの実行）.....	10
3.8 インストールの終了.....	10
4. セットアップ.....	11
4.1 設定ウィザード機能.....	11
4.1.1 UPSとサーバ接続した場合のセットアップ.....	12
4.1.2 UPSとクライアント接続した場合のセットアップ.....	23
4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセットアップ.....	32
5. SANUPS SOFTWAREの動作について.....	42
6. アンインストール.....	42
付録A Windows版をお使いになる際の注意事項.....	44

1. はじめに

SANUPS SOFTWAREは、UPSと組み合わせて使用するソフトウェアです。

停電などの電源異常発生時にコンピュータを安全に自動シャットダウンすることができます。

また、UPSの状態監視、状態履歴確認を行うことができます。

このマニュアルでは、**SANUPS SOFTWARE**のインストールおよびセットアップについての説明をしています。

1.1 動作環境

1.1.1 ハードウェア

CPU : **x86/x64: Intel Pentium**互換プロセッサ
(**Pentium III**以上を推奨)
Itanium: Itanium2以上のプロセッサ
メモリ : 128Mバイト以上 (256Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量 : 120Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ : 解像度800×600 / 256色以上

1.1.2 ソフトウェア

動作OS : **Windows 2000**
Professional / Server / Advanced Server
Windows XP
Professional / Home Edition
Professional x64 Edition
Windows Server 2003
Standard Edition / Enterprise Edition
Standard x64 Edition / Enterprise x64 Edition
Enterprise Edition for Itanium-based systems
Windows Server 2003 R2
Standard Edition / Enterprise Edition
Standard x64 Edition / Enterprise x64 Edition
Windows Vista
Business Edition / Ultimate Edition
Enterprise Edition
Business 64-bit Edition / Ultimate 64-bit Edition
Enterprise 64-bit Edition
Windows Server 2008 (※1)
Standard
Enterprise
Windows Web Server 2008 (※1)
Windows Server 2008 for Itanium-based Systems (※2)

Windows 7 (※3)

Professional
Ultimate
Enterprise

Windows Server 2008 R2 (※4)

Standard
Enterprise

Windows Web Server 2008 R2 (※4)

Windows 8 (※3)

Windows 8
Windows 8 Pro
Windows 8 Enterprise

Windows Server 2012 (※4) (※5)

Essentials / Standard / Datacenter

(※1) x86版, x64版に対応しています。Server Core にも対応しています。

(※2) Full installationのみの対応となります。

(※3) x86版, x64版に対応しています。

(※4) Server Core にも対応しています。

(※5) LANインタフェースカードに接続して使用する場合は、「4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセットアップ」の「**Windows OS**をECN機能「有効」でお使いになる場合の注意事項」を参照してからお使いください。

＜UPSからの電力給電開始により、OS自動起動を行う場合について＞

UPSからの電力供給開始により、コンピュータを自動起動するには、以下の条件が必要となります。

Windows XP の場合：

ServicePack2 以上がインストールされている必要があります。

Windows Server 2003 の場合：

ServicePack1 以上がインストールされている必要があります。

Windows 8 の場合：

Windows 8 Pro / Enterprise がインストールされている必要があります。

上記以外の場合：

ハードウェア側(BIOS)の設定で電源投入時のコンピュータの起動を設定する必要があります。
(詳しくは、購入先のコンピュータメーカー等にご確認ください)

インストールを行う前に

2. インストールを行う前に

インストールを行う前に、UPSとの接続について確認します。

2.1 UPSの動作モード確認

UPSの動作モードを確認します。

接続するUPSに「W/S（ワークステーション）モード」がある場合、「W/Sモード」に設定します。

（ただし、LANインタフェースカード、シリアルインタフェースカード等のオプションカードが組み込まれているUPSの場合、「W/Sモード」が設定済みとなっています。）

※「W/Sモード」の設定方法については、UPS付属の「取扱説明書」をご確認の上、設定を行ってください。

※ UPS本体の「外部転送信号」（接点信号）を使用する場合は、「W/Sモード」の設定は必要ありません。ただし、「外部転送信号」使用時は、UPSの停止ができない、UPSの状態表示ができない等の制約があります。

2.2 UPSとの通信接続

UPSと直接シリアルケーブルで接続して使用する場合は、**SANUPS SOFTWARE**、またはUPS付属のシリアルケーブルを使用します。

※当社指定以外のケーブルを使用した場合には、動作保障していません。

LANインタフェースカード（オプション品）使用時は、まずLANインタフェースカードにIPアドレスを設定していただいた上でご使用ください。

※LANインタフェースカードへのIPアドレス設定については、LANインタフェースカードの「ユーザガイド」をご確認の上、設定を行ってください。

※LANケーブルについては、**SANUPS SOFTWARE**、LANインタフェースカード、およびUPSには付属していません。お客様にて必要な長さのLANケーブルをご用意いただく必要があります。

2.3 コンピュータの接続方法の確認

UPSとの接続方法（UPSと直接シリアル接続、または LANインタフェースカードを使用するなど）につきましては、インストール後のセットアップ操作において設定します。

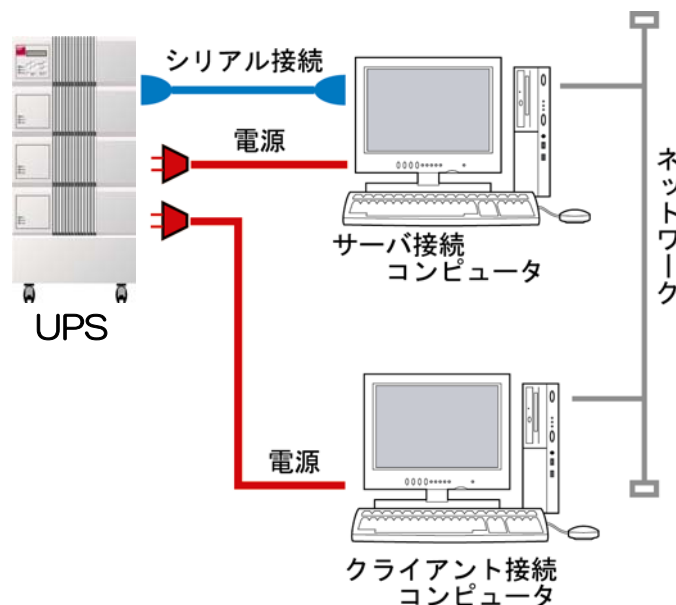
そのため、**SANUPS SOFTWARE**をインストールするコンピュータを、UPSとどのように接続して使用するかを決めておく必要があります。

UPSとコンピュータを接続する方法としては、次の2通りあります。

- ・シリアルケーブル（接点接続を含む）で接続して使用する場合
- ・LANインタフェースカードを使用する場合

以下にそれぞれの接続方法のシステム構成例を説明しています。

シリアルケーブルで接続して使用する場合

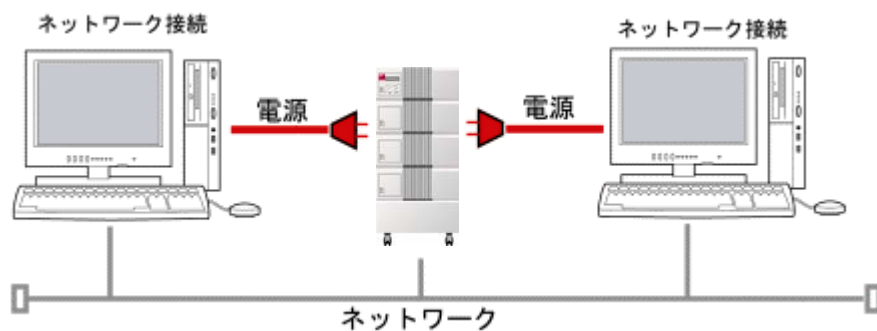


UPSとシリアル接続（接点接続含む）しているコンピュータは、「サーバ版」として動作し、それ以外のコンピュータは、「クライアント版」として動作します。（サーバクライアント間、クライアントクライアント間はネットワーク接続されている必要があります。）

UPSにコンピュータ1台のみ接続して使用する場合は、ネットワーク環境無しでも利用できます。

インストールを行う前に

LANインタフェースカードを使用する場合



LANインタフェース付きUPS使用時は、接続するコンピュータは、「ネットワーク版」として動作します。（サーバ、クライアントの区別はありません。）

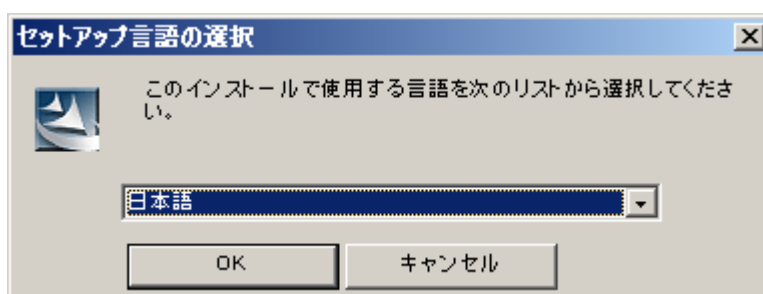
3. インストール

以降の操作は、管理者(Administrators)権限を持ったユーザで実施してください。

当社の「UPS 管理ソフト」の旧製品が既にインストールされている場合、あらかじめアンインストールを行ってから、本製品のインストールを行ってください。

3.1 インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE**のCD-ROMをセットします。
- (2) インストールプログラムが自動起動し、次の画面が表示されます。
ここでは、「日本語」版をインストールする場合について説明します。



ここで選択した言語は、後から変更することはできません。

<インストールプログラムが自動起動しない場合>

エクスプローラを起動し、CD-ROMドライブに移動します。

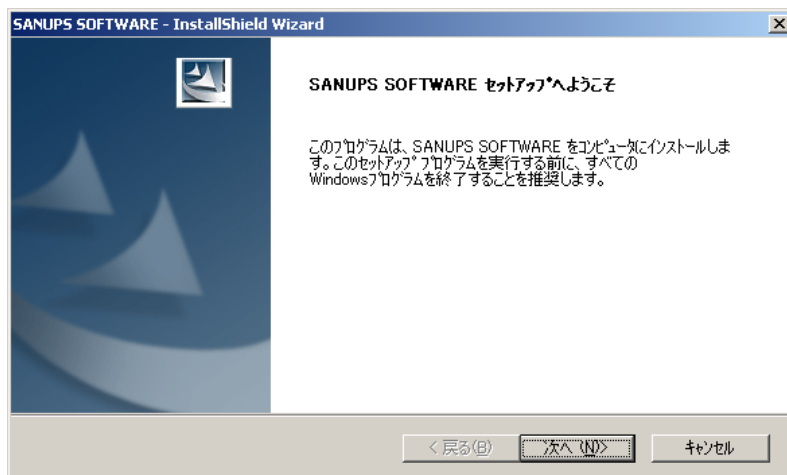
CD-ROMドライブ中にある **Setup.exe** をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。**Windows Server 2008**、または**Windows Server 2012** を **Server Core** 環境で使用している場合は、コマンドラインからCD-ROMドライブ中にある **Setup.exe** を実行します。

<Windows8/Windows Server 2012 でのインストールプログラムの起動>

- ・ アプリ環境でインストール CD をセットし、「タップしてこのディスクに対して行う操作を選んでください」の表示を選ぶと、「メディアからプログラムのインストール/実行」画面が表示されます。「**setup.exe の実行**」を選びインストールプログラムを起動します。
- ・ デスクトップ環境では、エクスプローラを起動し、CD-ROMドライブ中にある **Setup.exe** をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。

インストール

- (3) 言語を選択後、「OK」ボタンをクリック（選択）します。
- (4) インストールの準備中画面を表示後、次の画面が表示されます。

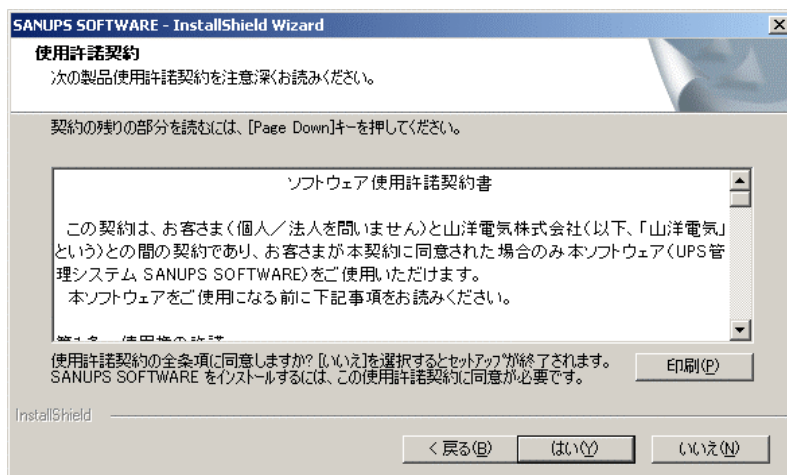


- (5) 「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

本画面以降、インストールを中断する場合は、インストール画面中の「キャンセル」ボタンをクリックすることで、インストールを中断終了することができます。

3.2 製品のライセンス

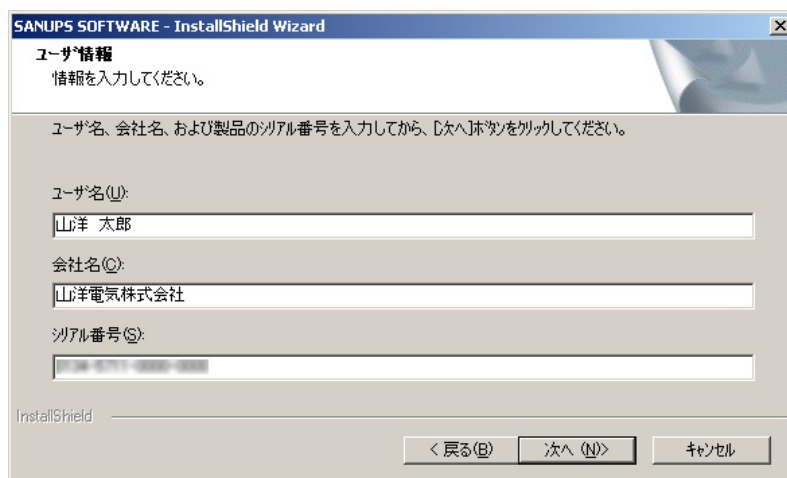
- (1) 使用許諾画面が表示されます。



- (2) 使用許諾契約に同意され、インストールを続ける場合は、「はい(Y)」ボタンをクリック（選択）します。

3.3 ユーザ情報の入力

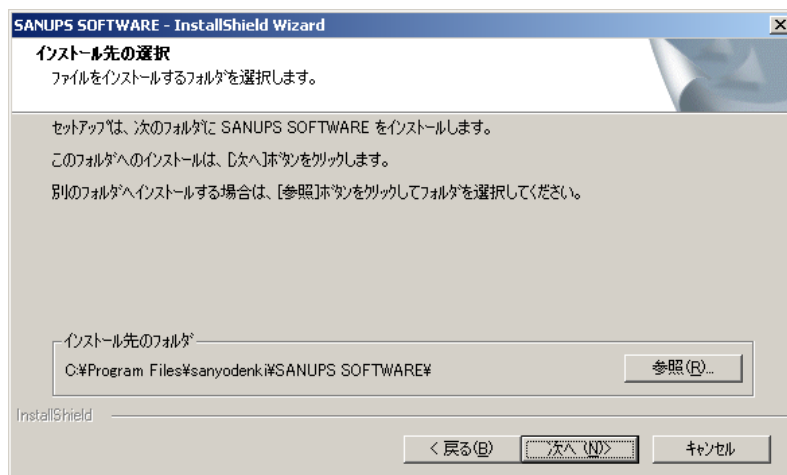
- (1) ユーザ情報の入力画面が表示されます。



- (2) 「ユーザ名(U)」、「会社名(C)」、「シリアル番号(S)」を入力します。
シリアル番号は、**SANUPS SOFTWARE**のCD-ROMケースに記載されています。
- (3) 「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

3.4 インストール先フォルダの確認

- (1) インストール先の選択画面が表示されます。

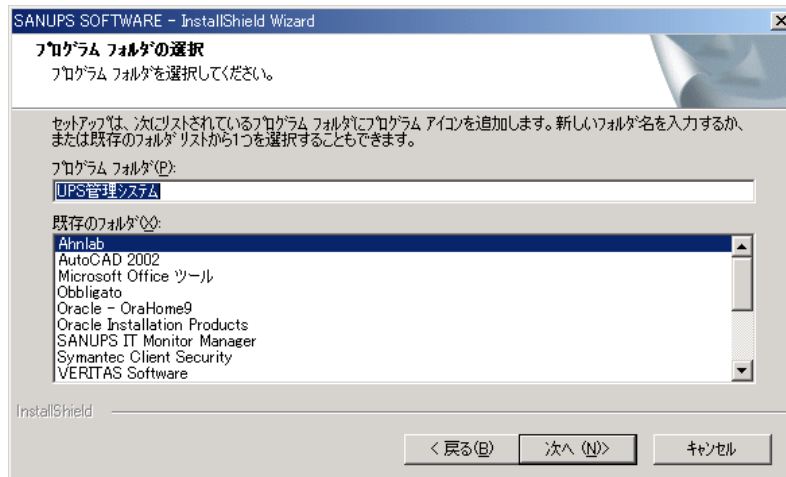


この画面で「インストール先」を変更することができます。

- (2) インストール先を指定後、「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

3.5 プログラムフォルダの選択

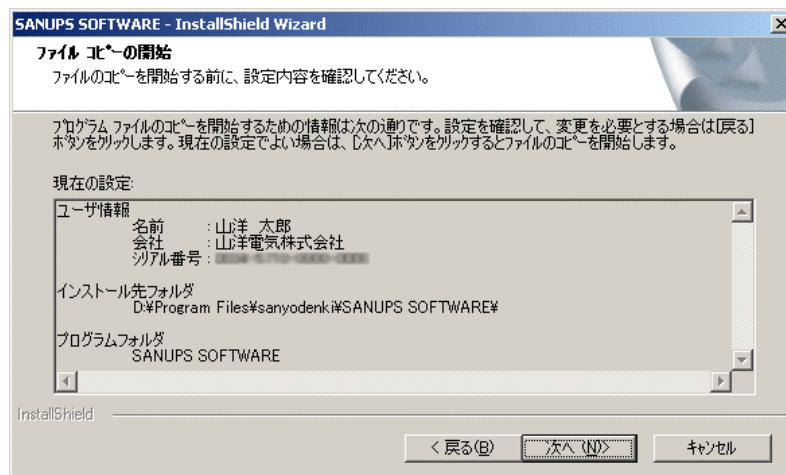
- (1) プログラムフォルダの選択画面が表示されます。



- (2) 「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

3.6 ファイル コピーの開始の確認

- (1) ファイル コピーの開始の確認画面が表示されます。



- (2) 設定内容を確認し、「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

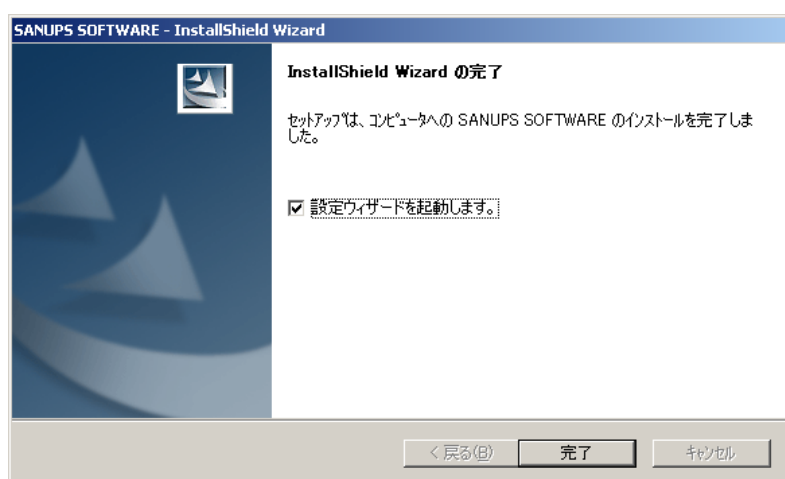
3.7 ファイルのコピー（インストールの実行）

- (1) ハードディスク上に**SANUPS SOFTWARE**のファイルがコピーされます。
インストールには、数分かかります。そのままお待ちください。

インストール先に十分な空き容量が無い場合、インストールできない場合があります。動作環境として十分な空き容量があるか確認してください。

3.8 インストールの終了

- (1) セットアップの完了画面が表示されます。



- (2) 「完了」ボタンをクリック（選択）すると、インストールプログラムは終了します。
「設定ウィザードを起動します」にチェックをつけた状態で、「完了」ボタンをクリック（選択）すると、引き続いて設定ウィザードが起動します。設定ウィザードについては、「4.1 設定ウィザード機能」を参照してください。

※ インストール完了後、UPSにコンピュータを登録することで停電時等の自動シャットダウンが行えます。

<インストール後のツール画面起動について（Windows 8/Windows Server 2012 の場合）>
Windows 8/Windows Server 2012 へ **SANUPS SOFTWARE** をインストールすると、「スタート」画面、および「アプリ」画面に「**SANUPS SOFTWARE**」のタイルが作成されます。
このタイルをクリックすると **SANUPS SOFTWARE** のツール画面が起動します。

4. セットアップ

SANUPS SOFTWAREをインストールした後、以下の「4.1 設定ウィザード機能」を使い、接続するUPSを登録します。

この登録作業完了後に、**SANUPS SOFTWARE**は、通常動作を始めます。

4.1 設定ウィザード機能

SANUPS SOFTWAREをインストールしたコンピュータにおいて、接続UPSが未登録の状態（インストール直後、または接続装置の削除による）で**SANUPS SOFTWARE**を起動すると、設定ウィザードが自動起動されますので、接続UPSの登録作業を行ってください。接続ウィザードで登録する内容は、登録作業後にも変更することができます。

UPS登録には、次の3通りのいずれかとしてコンピュータを登録します。

登録種別	参照項目	備考
UPSとのサーバ接続	4.1.1	※1
UPSとのクライアント接続	4.1.2	※2
UPSとのネットワーク接続	4.1.3	※3

※1 UPSと直接シリアル接続、または接点接続されているコンピュータの場合

※2 上記（※1）のコンピュータとネットワークで接続されているコンピュータの場合

※3 LANインタフェース付きUPSとネットワークで接続されているコンピュータの場合

該当する登録方法の項へ進み、セットアップを行ってください。

4.1.1 UPSとサーバ接続した場合のセットアップ

UPSと**SANUPS SOFTWARE**をインストールしたコンピュータがシリアルケーブルで接続されている場合、以下の手順でセットアップを行います。

注意：ウィザード設定を行う前には、UPSとコンピュータ間はシリアルケーブルで接続されている必要があります。

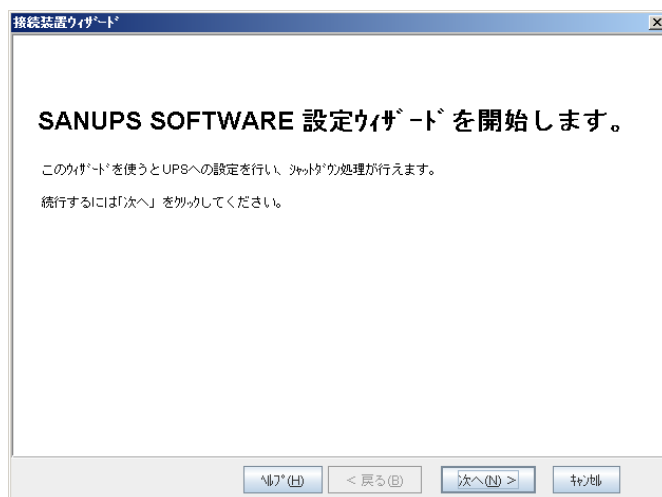
(A) **SANUPS SOFTWARE**（接続ウィザード）の起動

タスクバーの[スタート]ボタン－[すべてのプログラム]－[UPS管理システム]－[**SANUPS SOFTWARE**]を選択します。

（Windows2000 の場合、[スタート]ボタン－[プログラム]－[UPS 管理システム]－[**SANUPS SOFTWARE**] ）

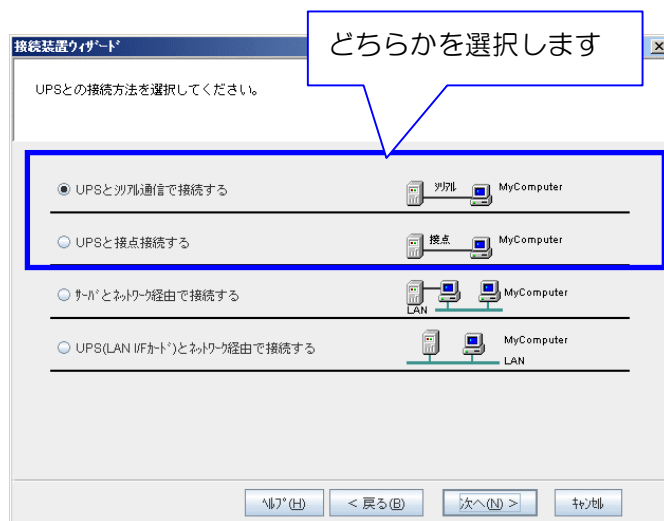
<情報>

Windows Server 2008、または **Windows Server 2012** を **Server Core** で使用している場合、**SANUPS SOFTWARE** インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから“**sg4 0**”を実行します。



SANUPS SOFTWARE 起動後、左図の画面が表示されます。「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS 接続方法の選択）へ移ります。

(B) UPS接続方法の選択

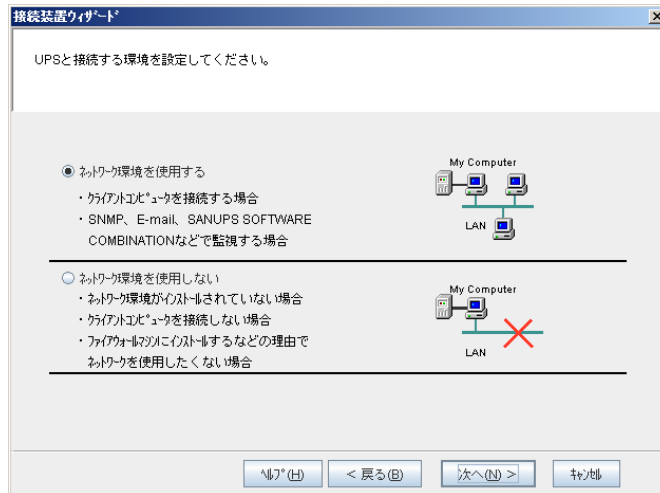


UPS との接続方法を選択します。
UPS とのサーバ接続の場合、
シリアル通信または接点接続
を選択します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、
次画面（UPS 使用環境の選択）
へ移ります。

接続方法	説 明
シリアル通信で接続する	シリアルインタフェース付きUPS、またはシリアルインタフェースカードをUPSにセットして使用する場合に設定します。
接点接続する	UPS本体の「外部転送信号」コネクタ（接点接続用）を使用し、コンピュータと接続する場合に設定します。

(C) UPS使用環境の選択



本コンピュータで使用する環境を選択します。
(下記の表を参照してください。)
「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（シリアルケーブルの接続設定）へ移ります。

SANUPS SOFTWARE 使用環境	使用マシンの環境
ネットワーク環境を使用する	- クライアントコンピュータを接続する場合 - SNMP、E-mail、SANUPS SOFTWARE COMBINATIONなどで監視する場合
ネットワーク環境を使用しない	- ネットワーク環境がインストールされていない場合 - クライアントコンピュータを接続しない場合 - ファイアウォールマシンにインストールするなどの理由で、ネットワークを使用したくない場合

(D) シリアルケーブルの接続設定

(a) シリアル接続の場合



使用するコンピュータのシリアルポート番号を選択します。
「自動検出」ボタンを使用すると、UPS とシリアル接続されているシリアルポート番号を検出できます。
「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS アカウント情報入力）へ移ります。

(b) 接点接続の場合



接続する UPS 種別を**「機種名選択」**リストから選択してください。
 （選択 UPS に合った信号設定が自動設定されます）
「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS アカウント情報入力）へ移ります。

- ※ **「機種名選択」**リストに無いUPSをお使いの場合は、「その他」を選択し、そのUPSの外部転送信号の極性情報を設定してください。
- ※ 接点接続して使用する場合、専用の接続ケーブルが必要になる場合があります。

<COMポート選択について>

お使いのコンピュータのシリアルポート表記がA, B, …となっている場合は、Aポートを1, Bポートを2と読み替えて接続するシリアルポートを選択してください。

(E) UPSアカウントの入力

UPS 管理者アカウントを入力します。

デフォルト設定値の、

管理者 : upsadmin

パスワード : UpsAdmin (注1)

を入力してください。

「OK」ボタンをクリックします。

ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(注1) パスワードは、大文字／小文字の区別を行います。

(F) コンピュータ情報の入力-1

本画面は「(C) UPSの使用環境の選択」

画面にて「ネットワークを使用する」を選択した場合に表示します。

本コンピュータのアドレス情報をネットワーク名またはIPアドレスで入力します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（コンピュータ情報の入力-2）へ移ります。

(G) コンピュータ情報の入力-2

UPS の履歴情報の保存条件、シャットダウンタイプならびに設置場所などの付属情報を設定します。

コンピュータの「**設置場所**」、「**コメント**」は空白のまま、次に進んでも問題ありません。

「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

< 情報 >

- ・ UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「**設置場所**」、「**コメント**」を入力してあると、管理が容易になります。
- ・ セットアップ完了後、設定画面から設定内を変更することができます。
設定方法は、ユーザガイド「6. 機能説明」を参照してください。

※シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説 明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (APCI[Advanced Power Configuration Interface]対応のWindowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。 (休止が有効となっているWindowsのみ設定できます。) <u>スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。</u> この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

復電後、コンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

(H) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するUPSが複数系統出力機能を持っている、かつ、シリアルケーブルの接続設定が「**UPSとシリアル通信で接続する**」の場合に表示されます。

複数系統出力機能を持っていないUPS、またはシリアルケーブルの接続設定が「**UPSと接点接続する**」の場合、本画面は表示されません。その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。

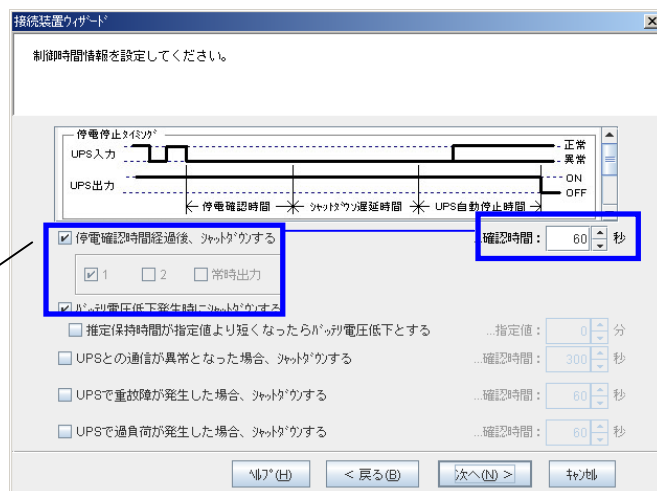
コンピュータを接続しているUPSの出力コンセント番号を選択します。

(UPSの「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

(I) UPS制御情報設定-1 (シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS制御情報設定-2）へ移ります。

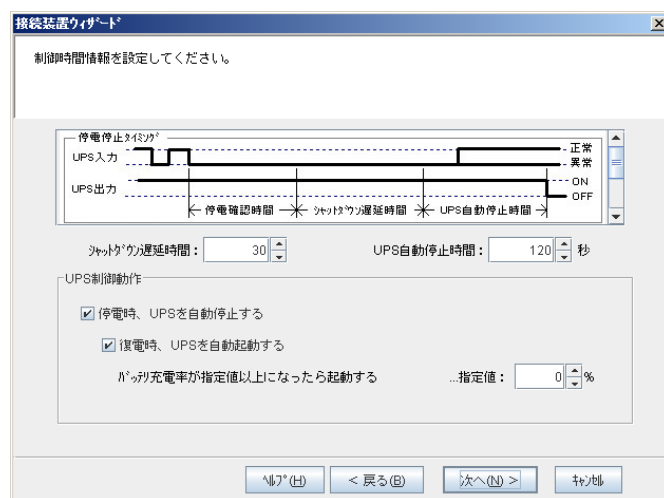
停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」（コンセント番号「0」）の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。
（複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。）

- ・ **コンセント番号にチェックを入れた場合**
チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。
- ・ **コンセント番号のチェックをはずした場合**
チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。
（バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンを行います）

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリー電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。
（但し、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリー電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。）

注意：
「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。
長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリー放電終止によりUPS停止となる場合があります。
この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

(J) UPS制御情報設定-2

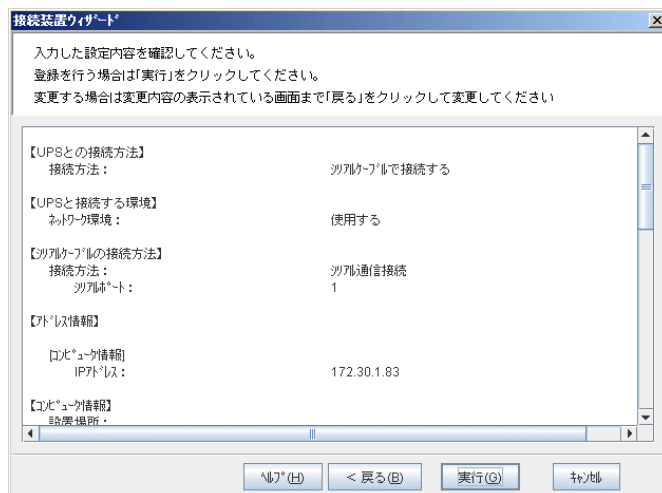


前画面に引き続いてUPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（設定情報確認）へ移ります。

セットアップ

(K) 設定情報確認

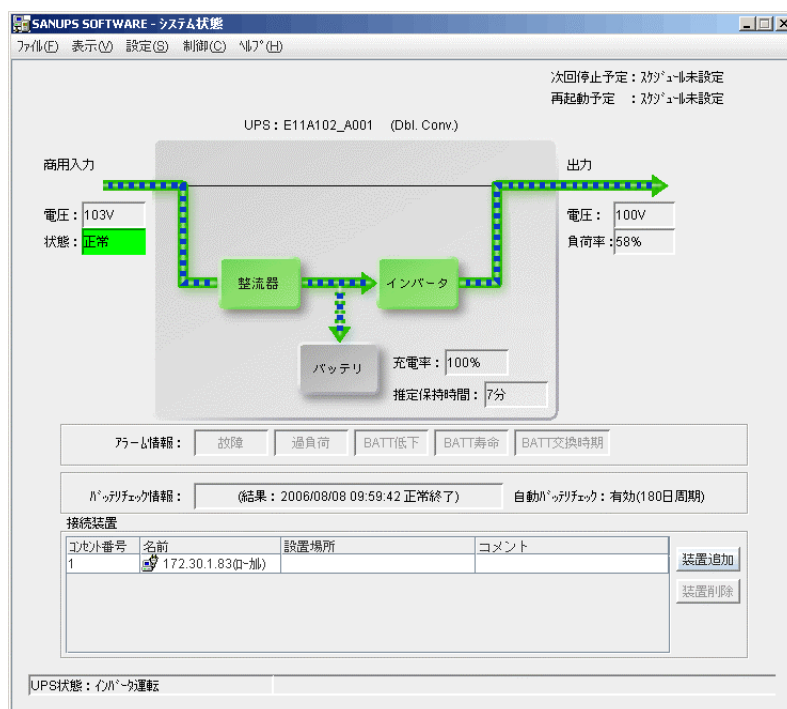


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ「**実行(G)**」ボタンをクリックしてください。

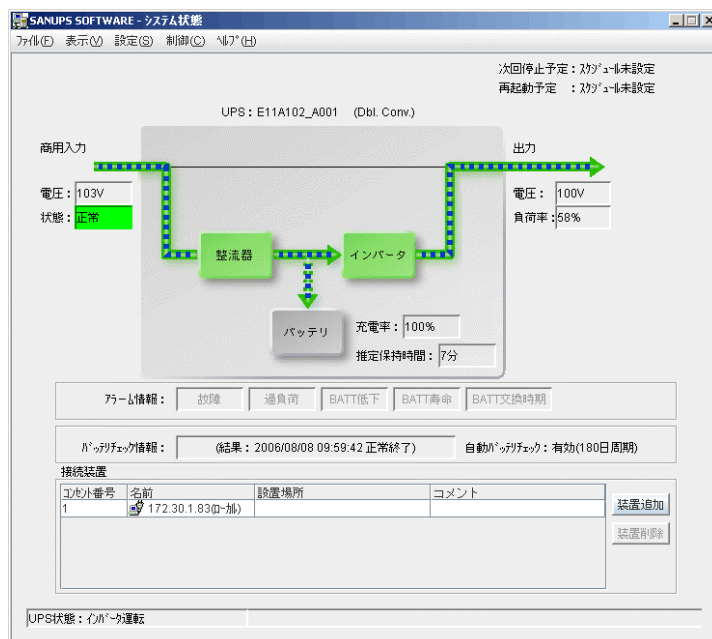
設定内容を変更したい場合は、「**戻る(B)**」ボタンをクリックし、該当する画面まで戻ってください。

↓ 「**実行(G)**」ボタンをクリック（設定完了）



SANUPS SOFTWAREメイン画面が表示されます。

(L) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが登録表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

(M) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生メッセージが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

- ・UPS とのシリアルケーブルが正しく接続されているか
- ・**SANUPS SOFTWARE** サービスプログラムが動作しているか
(サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を参照してください。)

4.1.2 UPSとクライアント接続した場合のセットアップ

シリアルインタフェースを持ったUPSに複数台のコンピュータを接続する場合、**SANUPS SOFTWARE**を**サーバ版**としてセットアップしたコンピュータ以外は**クライアント版**として、以下の手順でセットアップを行います。

(A) SANUPS SOFTWARE（接続ウィザード）の起動

タスクバーの[スタート]ボタン-[すべてのプログラム]-[UPS管理システム]-[SANUPS SOFTWARE]を選択します。

（Windows2000 の場合、[スタート]ボタン-[プログラム]-[UPS 管理システム]-[SANUPS SOFTWARE] ）

<情報>

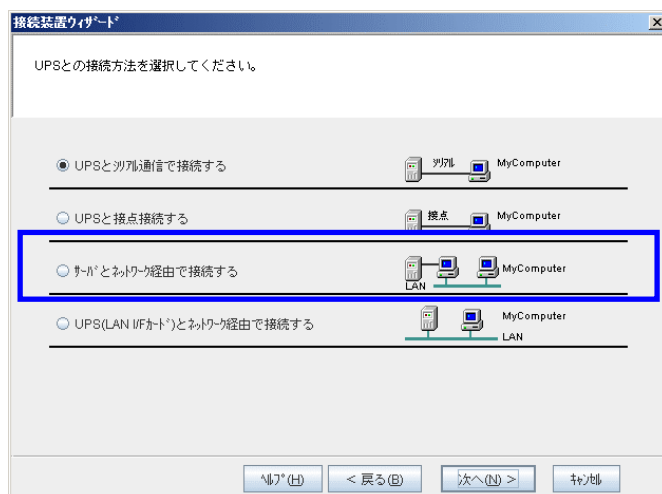
Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Core で使用している場合、SANUPS SOFTWARE インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから“sg4 0”を実行します。



SANUPS SOFTWARE を起動すると、左図の画面が表示されます。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS 接続方法の選択）へ移ります。

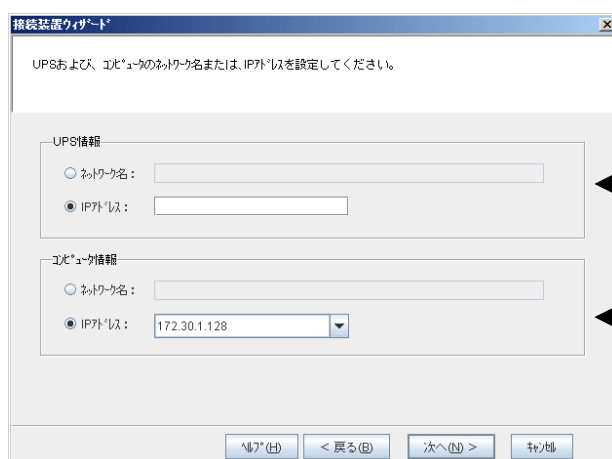
(B) UPS接続方法の選択



「サーバとネットワーク経由で接続する」を選択します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（ネットワーク設定）へ移ります。

(C) ネットワークの設定



ネットワーク接続する情報を設定します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

← サーバ接続しているコンピュータのネットワーク情報を設定します。

← 自コンピュータのネットワークを設定します。
ネットワークカードを複数枚使用している場合は、接続に使用するネットワークを選択します。

設定項目	内容
UPS情報	サーバ接続するコンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定 ^(※1)
コンピュータ情報	自コンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定 ^(※1)

(※1) コンピュータが、DHCPなどを使い、ネットワーク名による管理をしている場合は、「ネットワーク名」を使用してください。

セットアップ

(D) UPSアカウントの入力

UPS 管理者アカウントを入力します。
デフォルト設定値の、
管理者 : **upsadmin**
パスワード : **UpsAdmin** (注1)
を入力してください。
「OK」ボタンをクリックします。
ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(注1) パスワードは、大文字／小文字の
区別を行います。

(E) Wake On LAN の設定

お使いのコンピュータが **Wake On LAN** 機能に対応している場合、UPSからの電源供給後、コンピュータの電源自動投入が可能になります。

Wake On LAN機能の設定を行います。
(コンピュータ環境がわからない場合は、「設定をしない」としてください。
この設定の有無は、UPS管理システムの動作には影響しません。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、
次画面（コンピュータ情報入力）
へ移ります。

<情報>

セットアップ完了後、設定画面から設定内容を変更することができます。
設定方法は、ユーザガイド「6. 機能説明」を参照してください。

(F) コンピュータ情報の入力

UPSの履歴情報の保存条件、シャットダウンタイプならびに設置場所などの付属情報を設定します。また、サーバとの通信接続が切れた場合の動作設定も行えます。コンピュータの「**設置場所**」、「**コメント**」は空白のまま、次に進んでも問題ありません。「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

<情報>

UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「**設置場所**」、「**コメント**」を入力してあると、管理が容易になります。

※シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説 明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (APCI[Advanced Power Configuration Interface]対応のWindowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。 (休止が有効となっているWindowsのみ設定できます。) <u>スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。</u> この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

復電後、コンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

(G) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するUPSが複数系統出力機能を持っている、かつ、**SANUPS SOFTWARE**のサーバ版の、シリアルケーブルの接続設定が「**UPSとシリアル通信で接続する**」の場合に表示されます。

複数系統出力機能を持っていないUPS、または**SANUPS SOFTWARE**のサーバ版の、シリアルケーブルの接続設定が「**UPSと接点接続する**」の場合、本画面は表示されません。その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



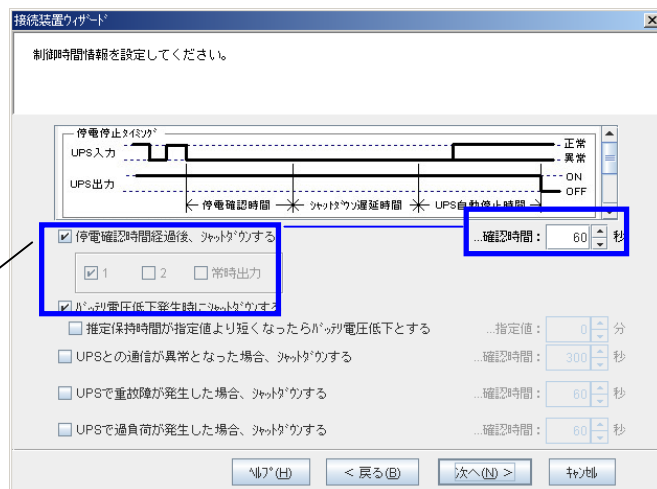
コンピュータを接続しているUPSの出力コンセント番号を選択します。

（UPSの「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。）

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

(H) UPS制御情報設定-1 (シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS制御情報設定-2）へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」（コンセント番号「0」）の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。
（複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。）

- ・ **コンセント番号にチェックを入れた場合**
チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。
- ・ **コンセント番号のチェックをはずした場合**
チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。
（バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンを行います）

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリー電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。
（但し、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリー電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。）

注意：

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。
長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリー放電終止によりUPS停止となる場合があります。
この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

セットアップ

(I) UPS制御情報設定-2

接続装置ウィザード

制御時間情報を設定してください。



シャットダウン遅延時間: 30 UPS自動停止時間: 120 秒

UPS制御動作

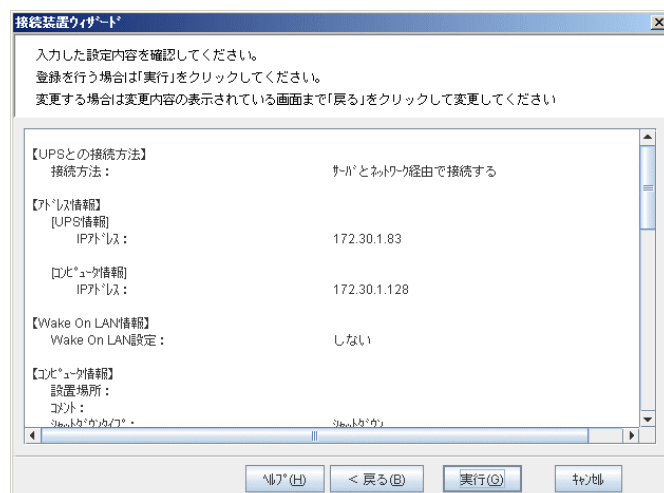
- ☒ 停電時、UPSを自動停止する
- ☒ 復電時、UPSを自動起動する
- バッテリー充電率が指定値以上になったら起動する ...指定値: 0 %

戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

前画面に引き続いてUPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（設定情報確認）へ移ります。

(J) 設定情報確認

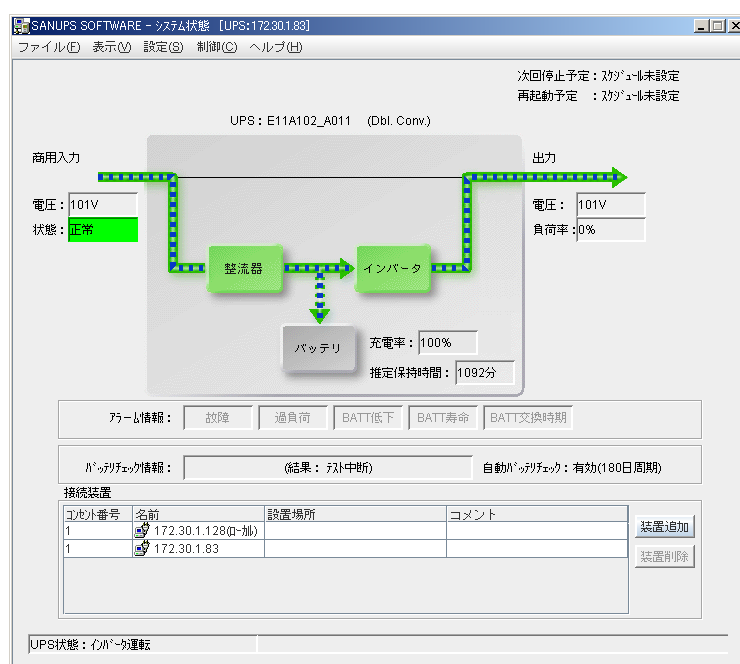


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ「**実行(G)**」ボタンをクリックしてください。

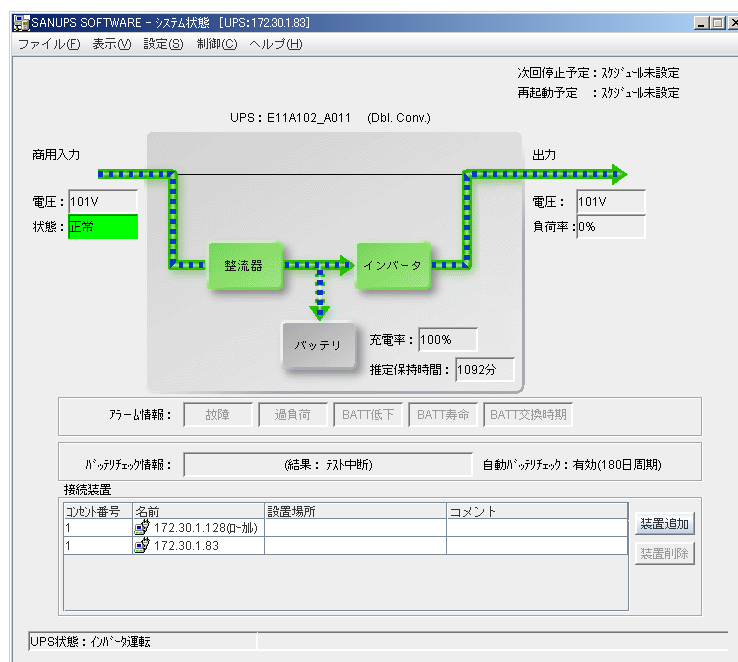
設定内容を変更したい場合は、「**戻る(B)**」ボタンをクリックし、該当する画面まで戻ってください。

↓ 「**実行(G)**」ボタンをクリック（設定完了）



SANUPS SOFTWAREメイン画面が表示されます。

(K) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが登録表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

(L) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生のメッセージが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

- ・UPS とのシリアルケーブルが正しく接続されているか
- ・**SANUPS SOFTWARE** サービスプログラムが動作しているか
(サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を参照してください)
- ・Windows ファイアウォールが有効になっていないか
(「付録 A Windows ファイアウォールのご使用にあたって」を参照してください。)

情報：
シャットダウンテスト機能を使用し、このコンピュータ単体でシャットダウン確認を行うことができます。

4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセッティング

Windows OS を ECN 機能^(※)「有効」でお使いになる場合の注意点について

(※) ECN (Explicit Congestion Notification) 機能 (輻輳情報通知機能) は、ルータ間で輻輳が発生した場合、データの伝送速度を遅くして、パケットの損失を防ぐための機能です。

Windows Vista 以降からサポートされていますが (デフォルト値は「無効」になっています)、

Windows Server 2012 からデフォルト値「有効」に設定されています。

LAN インタフェースカードと ECN 機能「有効」の **Windows OS (Windows Server 2012)** をネットワーク接続して使用される場合は、以下の内容を確認していただき、ご使用ください。

LAN インタフェースカードは、ECN 機能に対応していないため、

Windows Server 2012 など ECN 機能が「有効」な **Windows OS** が LAN インタフェースカードとネットワーク接続して、装置登録/設定変更などを行うとネットワーク通信が非常に遅くなり、GUI ツール画面の表示が遅くなります。

そのため、**Windows Server 2012** など ECN 機能が「有効」な **Windows OS** において GUI ツールを使用する場合は、一時的に ECN 機能を「無効」にして GUI ツールを使用していただくか、または別コンピュータ上の **SANUPS SOFTWARE** (あるいは **SANUPS SOFTWARE COMBINATION**) から装置登録/設定変更を実施してください。

ECN 機能「有効」で使用いただいても、電源障害時のシャットダウン動作については、問題なく動作いたします。

次の手順で ECN 機能の設定状態の確認、設定値変更を行えます。

設定状態の確認方法

- ① 管理者権限でログインし、コマンドプロンプトから下記のコマンドを実行します。
`netsh interface tcp show global`
- ② ECN 機能の設定値を確認します。
ECN 機能が、有効 (enabled) / 無効 (disabled) が表示されます。

ECN 機能を「無効」に変更する方法^(※1)

管理者権限でログインした状態で以下のいずれかで変更を行います。

方法 1) **SANUPS SOFTWARE** インストールフォルダ内の「**ECN_DISABLE.BAT**」を実行します。

方法 2) コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

`netsh interface tcp set global ecncapability=disabled`

ECN 機能を「有効」に変更する方法^(※1)

管理者権限でログインした状態で以下のいずれかで変更を行います。

方法 1) **SANUPS SOFTWARE** インストールフォルダ内の「**ECN_ENABLE.BAT**」を実行します。

方法 2) コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

`netsh interface tcp set global ecncapability=enabled`

※ 1 : ECN 機能の設定値変更による OS 再起動は必要ありません。

Windows Server 2012 などの ECN 機能が「有効」な **Windows OS** を LAN インタフェースカードと使用しない場合 (サーバ/クライアント構成など) は、ECN 機能「有効」の設定値のまま使用できます。

セットアップ

LANインタフェース・カードを組み込んだUPSにコンピュータを接続する場合、以下の手順でセットアップを行います。

注意：使用するUPS（LANインタフェース・カード）には、使用する環境に合わせたIPアドレスが設定されている必要があります。（設定の詳細は、LANインタフェース・カード「ユーザガイド」を参照してください。）

（A）SANUPS SOFTWARE（接続ウィザード）の起動

タスクバーの[スタート]ボタン－[すべてのプログラム]－[UPS管理システム]－[SANUPS SOFTWARE]を選択します。

（Windows2000 の場合、[スタート]ボタン－[プログラム]－[UPS 管理システム]－[SANUPS SOFTWARE] ）

<情報>

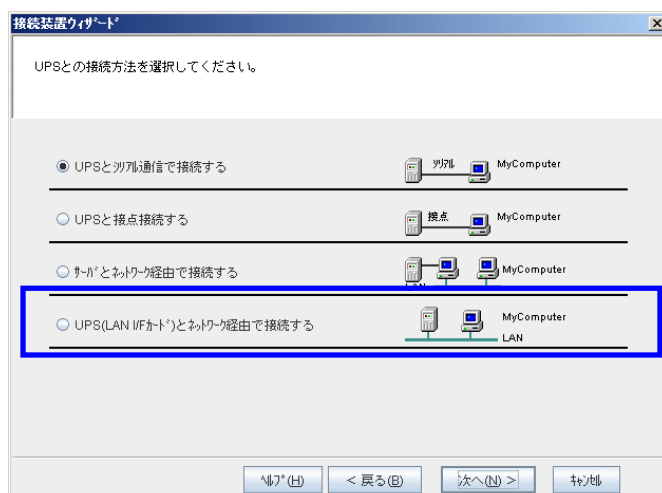
Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Core で使用している場合、SANUPS SOFTWARE インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから“sg4 0”を実行します。



SANUPS SOFTWARE を起動すると、左図の画面が表示されます。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS 接続方法の選択）へ移ります。

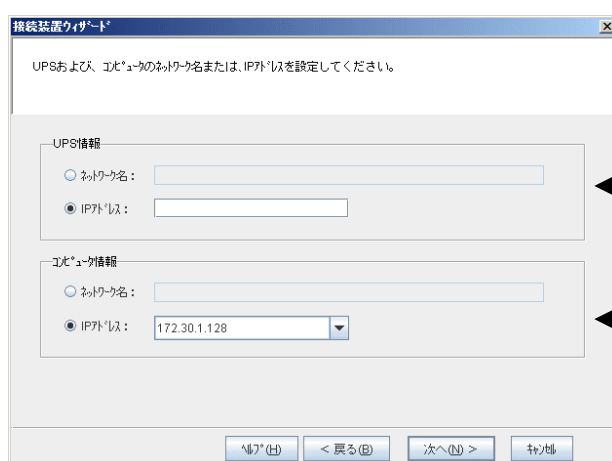
(B) UPS接続方法の選択



「UPS (LAN I/F カード)とネットワーク経由で接続する」を選択します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（ネットワーク設定）へ移ります。

(C) ネットワークの設定



ネットワーク接続する情報を設定します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

LAN インタフェース付き UPS に設定してあるネットワーク情報を設定します。

自コンピュータのネットワークを設定します。
ネットワークカードを複数枚使用している場合は、接続に使用するネットワークを選択します。

設定項目	内容
UPS情報	LANインタフェース付きUPSに設定してあるネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定（※1）
コンピュータ情報	自コンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定（※1）

（※1）DHCPなどを使い、ネットワーク名による管理をしている場合は、
「ネットワーク名」を使用してください。

セットアップ

(D) UPSアカウントの入力

UPS 管理者アカウントを入力します。
デフォルト設定値の、
管理者 : **upsadmin**
パスワード : **UpsAdmin** (注1)
を入力してください。
「OK」ボタンをクリックします。
ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(注1) パスワードは、大文字／小文字の
区別を行います。

(E) Wake On LAN の設定

お使いのコンピュータが **Wake On LAN** 機能に対応している場合、UPSからの電源
供給後、コンピュータの電源自動投入が可能になります。

Wake On LAN 機能の設定を行います。
(コンピュータ環境がわからない場合
は、「設定をしない」としてください。
この設定の有無は、UPS 管理システム
の動作には影響しません。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面
(コンピュータ情報入力) へ移ります。

<情報>

セットアップ完了後、設定画面から設定内容を変更することができます。
設定方法は、ユーザガイド「6. 機能説明」を参照してください。

(F) コンピュータ情報の入力

UPS の履歴情報の保存条件、シャットダウンタイプならびに設置場所などの付属情報を設定します。また、LAN I/F カードとの通信接続が切れた場合の動作設定も行えます。コンピュータの「**設置場所**」、「**コメント**」は空白のまま、次に進んでも問題ありません。「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

<情報>

UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「**設置場所**」、「**コメント**」を入力してあると、管理が容易になります。

※シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説 明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (APCI[Advanced Power Configuration Interface]対応のWindowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。 (休止が有効となっているWindowsのみ設定できます。) <u>スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。</u> この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

復電後、コンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

(G) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するLANインタフェース・カードを組み込んだUPSが複数系統出力機能を持っている場合に表示されます。

接続するLANインタフェース・カードを組み込んだUPSが複数系統出力機能を持っていない場合、または**LAN ADAPTER**に接続する場合、本画面は表示されません。

その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



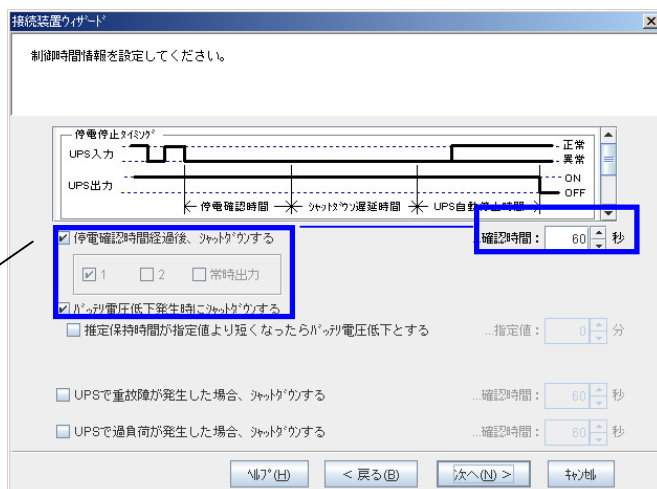
コンピュータを接続しているUPS の出力コンセント番号を選択します。

(UPS の「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

(H) UPS制御情報設定-1 (シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS制御情報設定-2）へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」（コンセント番号「0」）の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。
（複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。）

・コンセント番号にチェックを入れた場合

チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。

・コンセント番号のチェックをはずした場合

チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。（バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンを行います）

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリー電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

（但し、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリー電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。）

注意：

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリー放電終止によりUPS停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

セットアップ

(I) UPS制御情報設定-2



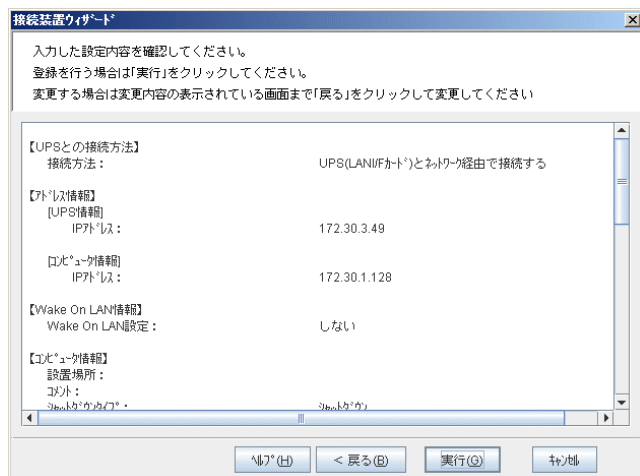
前画面に引き続いてUPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（設定情報確認）へ移ります。

<情報>

LAN インタフェースカードの種類により、「停電時、UPS を自動停止する」、「復電時、UPS を自動起動する」のデフォルト設定値が異なる場合があります。お使いの環境に合うように、設定値を確認してください。

(J) 設定情報確認

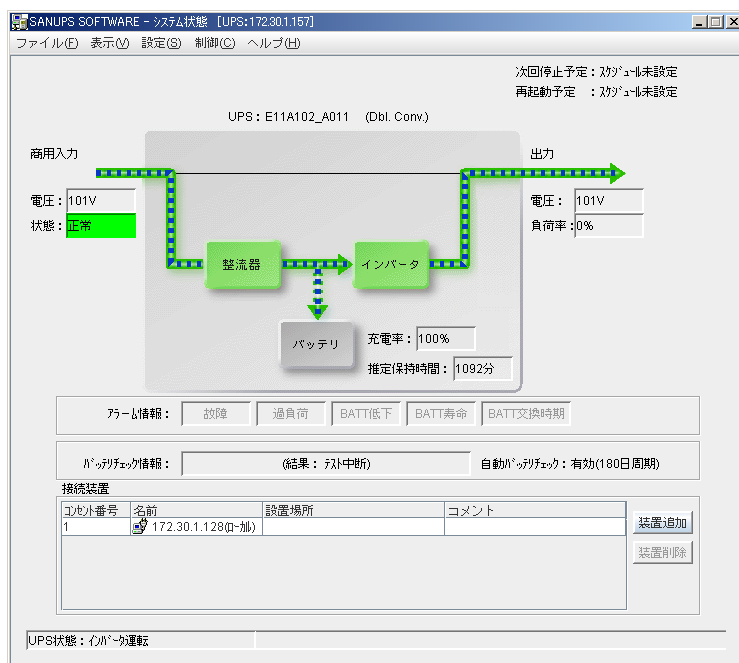


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ「**実行(G)**」ボタンをクリックしてください。

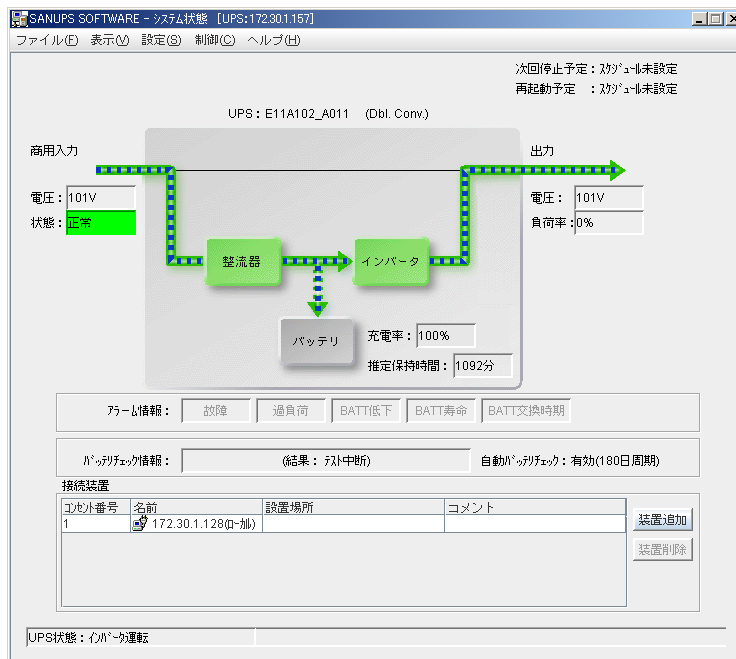
設定内容を変更したい場合は、「**戻る(B)**」ボタンをクリックし、該当する画面まで戻ってください。

↓ 「**実行(G)**」ボタンをクリック（設定完了）



SANUPS SOFTWAREメイン画面が表示されます。

(K) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが登録表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

(L) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生メッセージが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

- ・UPSとのLANケーブルが正しく接続されているか
- ・**SANUPS SOFTWARE** サービスプログラムが動作しているか
(サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A サービスの操作」を参照してください)
- ・Windows ファイアウォールが有効になっていないか
(「付録A Windows ファイアウォールのご使用にあたって」を参照してください。)

情報：

シャットダウンテスト機能を使用し、このコンピュータ単体でシャットダウン確認を行うことができます。

5. SANUPS SOFTWAREの動作について

SANUPS SOFTWAREの動作等に関しては、「ユーザガイド」を参照してください。

ユーザガイドは、PDFファイルでの提供となります。

Acrobat Reader7.0 以降を使用して参照してください。

6. アンインストール

SANUPS SOFTWAREをアンインストールするには、以下の作業を行ってください。

以降の操作は、管理者(Administrators)権限を持ったユーザで実施してください。

サーバ/クライアント構成で使用している、または LAN インタフェースカード構成で使用している場合、自装置の登録情報を削除する前に、アンインストールを行うと、自装置の情報がサーバ装置側、または LAN インタフェースカード側に残ったままになります。

アンインストールを行う前に、自装置の登録情報を削除してから、アンインストールを行ってください。

●SANUPS SOFTWAREのアンインストール

- ①タスクバーの[スタート]メニューから、[コントロール パネル]を選択します。
- ②コントロールパネル内の以下に示す機能を選択します。
 - ・ [アプリケーションの追加と削除] (Windows 2000の場合)
 - ・ [プログラムの追加と削除] (Windows XP、Windows Server 2003の場合)
 - ・ [プログラムと機能] (Windows Vista、Windows Server 2008以降の場合)
- ③アプリケーションの一覧から「UPS管理システムSANUPS SOFTWARE」を選択して実行します。「プログラムを修復、または削除します。」画面にて「削除」を選択し、削除を行います。

●Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Coreで使用している場合のアンインストール

＜SANUPS SOFTWAREのCD-ROMがある場合＞

- ①CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE**のCD-ROMをセットします。
- ②CD-ROM内のインストールプログラム(**Setup.exe**)を起動します。
- ③「**言語の選択**」にインストール時に選択した言語を選択し、「**OK**」ボタンをクリックします。
- ④「**プログラムを修復、または削除します。**」画面にて「**削除**」を選択し、削除を行います。

＜SANUPS SOFTWAREのCD-ROMがない場合＞

- ①インストールフォルダへ移動します。
(デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE)
- ②コマンドラインからUPSサービスを停止します。
- ③コマンドラインからUPSサービス(SGUPSSVC.exeとSGSVC.exe)のエントリを削除します。
- ④コマンドラインからアンインストールを実行します。

実行コマンド例 (デフォルトインストールフォルダの場合)

```
D:\>cd c:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE .....①
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >net stop SGSVC .....②
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >SGUPSSVC.exe /UnRegServer .....③
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >SGSVC.exe /UnRegServer .....③
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >wmic product where name="SANUPS SOFTWARE " call uninstall
.....④
```

付録A Windows版をお使いになる際の注意事項

コンピュータの自動起動機能の制約について

1. 以下のOSをお使いの場合、ご使用中のコンピュータによっては、UPSからの電源供給によるコンピュータの自動起動が行われない場合があります。

Windows XP SP1

Windows Server 2003（サービスパックなし）

ご使用中のコンピュータにおいて電源オフ機能がサポートされている場合、コンピュータのシャットダウンが行われた後に（“**コンピュータの電源を切断しても安全です。**”のメッセージが表示されずに）電源が切れます。このとき、UPSからの電源供給が行われた場合でも、コンピュータのPowerON操作を行わないと起動できない場合があります。

コンピュータの自動起動は、コンピュータ側のハードウェア設定（**BIOS**設定）に依存しているため、**BIOS**設定内容を変更することでコンピュータの自動起動が行える場合があります。

例えば、

- ・「**電源供給時にコンピュータをすぐさま起動する機能**」を有効にする。
- ・**WakeUp**機能（リング信号、**WakeOnLAN**等）を有効にする。

などです。

ただし、**BIOS**設定内容は、コンピュータの機種により異なります。

詳しくは、コンピュータの取扱説明書、またはコンピュータの購入先へお問い合わせください。

<注意>

BIOS設定を変更する場合は、コンピュータの取扱説明書をお読みにになり、お客様の責任において実施してください。

2. **Windows XP**以降のOSにおいては、UPS管理ソフトでシャットダウンが行われた後に（“**コンピュータの電源を切ることができます。**”のメッセージが表示されずに）自動的に電源オフする場合は、UPSから電源供給を行ってもコンピュータが自動起動しない場合があります。

これを回避するため、以下の手順に従い、UPS 管理ソフトからのシャットダウン時に、自動的に電源オフしないように設定を変更してください。

＜手順＞Windows XP～Windows Server 2008R2までの場合

- [1][スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックし、“gpedit.msc”を実行します。
または、Windows Vista 以降のOSにおいては、[スタート]メニューの検索欄を使用し、“gpedit.msc”を実行します。



※上記画面は Windows Vista のものです。

- [2][ローカルコンピュータポリシー]－[コンピュータの構成]－[管理用テンプレート]－[システム]を開きます。
[3][Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない]をダブルクリックします。
[4][設定]タブの[有効]を選択し、[OK]をクリックします。

※Windows sever 2008 Server Core の場合、リモートマシン (Windows Vista 以降のWindows OS) からMMC を使用して、[グループポリシーオブジェクトエディタ]から[Windowsシステムのシャットダウンのときに電源を切らない]の[有効]設定を行ってください。設定後、グループポリシーの設定変更を有効にするため、OSを再起動してください。

＜手順＞Windows 8 Pro / Enterprise、Windows Server 2012 の場合

- [1][スタート]画面の検索欄に「Edit Group Policy」を入力します。[設定]をクリックし、「グループポリシーの編集」を選択します。（同様な方法としては、「コマンドプロンプト」を開き、“gpedit”を実行します。）
[2][ローカル グループ ポリシー エディター]画面が開きます。[ローカルコンピュータポリシー]－[コンピュータの構成]－[管理用テンプレート]－[システム]を開きます。
[3][Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない]をダブルクリックします。
[4][設定]タブの[有効]を選択し、[OK]をクリックします。

Windows 8 Pro / Enterprise 以外の Windows 8 では、[ローカル グループ ポリシー エディター]は起動できません。そのため、BIOS 設定により電源給電時にコンピュータを起動するように設定を行う、または Wake Up 機能を利用して、コンピュータを自動起動するようにします。

ターミナルサービスを利用される場合の制約について

Windows XP以降のターミナルサービス（リモートデスクトップ接続）をご利用になる際、以下の条件で動作した場合、シャットダウンが行われない場合があります。

スケジュール機能等でコンピュータの自動シャットダウンを行う際に、（UPS管理ソフトの設定値）シャットダウンの遅延を「無限に繰り返す」に設定されている場合（全てのユーザがログオフするまで待つ設定がされている）、リモートクライアント側でログオフせずにセッションを終了している（切断状態の）ユーザがいると、シャットダウンが行われません。

これは、切断状態のユーザはターミナルサーバ上では、ログオン状態であるとみなされているためです。ただし、停電時のシャットダウン動作時は、上記の条件に関係なくシャットダウンは行われます。

Windowsファイアウォールのご使用にあたって

「Windows ファイアウォール」が有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができなくなります。（ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、問題ありません。）

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合（※）は、ファイアウォールを通過できる「例外」の設定が必要となります。

※ UPS 管理ソフトのサーバクライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

<手順>Windows XP, Windows Server 2003 の場合

- ①[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[Windowsファイアウォール]を選択します。
- ②Windows ファイアウォール画面の[例外]タブを開き、UPS管理ソフトのインストールフォルダにある「SGUPSSvc.exe」を例外として追加登録します。
（デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE ）
- ③Windows ファイアウォール画面の[詳細設定]タブを開き、ICMPの設定ボタンを選択し、「エコー要求の着信を許可する」をチェックして、ICMPの受信を許可します。
- ④UPS管理ソフトのGUIツールを起動すると、「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージ（名前：javaw）が表示される場合があります。この場合、「ブロックを解除する」を選択します。これにより、GUIツール（javaw）が、Windowsファイアウォールの例外に追加されます。

「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージにおいて、「ブロックする」または「後で確認する」を選択した場合は、上記①～②の手順により、UPS管理ソフトのインストールフォルダ配下

のJRE¥binフォルダにある「javaw.exe」を例外として追加登録してください。

(デフォルトインストールフォルダ C:¥Program Files¥Sanyodenki¥SANUPS SOFTWARE¥JRE¥bin)

＜手順＞Windows Vista , Windows Server 2008以降の場合

- ①Windows Vista、Windows 7の場合、[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[管理ツール]－[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

Windows Server 2008の場合、[スタート]メニューから[管理ツール]－[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

Windows 8、Windows Server 2012の場合、[設定]から[コントロールパネル]－[管理ツール]－[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

- ②[受信の規則]を選択して、右クリックメニューの[新規の規則]を選択します。規則の種類「プログラム」を選択し、[次へ]をクリックします。[このプログラムのパス]にUPS管理ソフトのインストールフォルダにある「SGUPSSvc.exe」を参照入力し、[次へ]をクリックします。

(デフォルトインストールフォルダ C:¥Program Files¥Sanyodenki¥SANUPS SOFTWARE)

「接続を許可する」を選択し、[次へ]をクリックし、適用するネットワークを選択して、[次へ]をクリックします。

規則の名前（例: SGUPSSvc-Rule）を入力して、[完了]をクリックします。

- ③「受信規則」の中の「ファイルとプリンタの共有(エコー要求 - ICMPv4 受信)」の規則をダブルクリックして、全般タブにある[有効]のチェックボックスをオンにして、ICMPの受信を許可します。

- ④UPS管理ソフトのGUIツールを起動すると、「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージ（名前: Java(TM)2 Platform Standard Edition binary）が表示される場合があります。この場合、「ブロックを解除する」を選択します。

これにより、GUIツール（javaw）が、Windowsファイアウォールの例外に追加されます。

「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージにおいて、「ブロックする」を選択した場合は、上記①～②の手順により、UPS管理ソフトのインストールフォルダ配下のJRE¥binフォルダにある「javaw.exe」を受信の規則に新規設定登録してください。

(デフォルトインストールフォルダ C:¥Program Files¥Sanyodenki¥SANUPS SOFTWARE¥JRE¥bin)

※Windows Server 2008、および Windows Server 2012を Server Core 環境で使用している場合、リモートマシン（Windows Vista 以降のWindows OS）からMMCを使用して、[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]から「SGUPSSvc.exe」および「javaw.exe」を受信の規制に新規設定登録、および ICMP の受信許可の設定を行ってください。

Windows Server 2003、Windows Server 2008でのご使用にあたって

ターミナルサービスをご利用になる場合：

メッセージ送信機能により送信先が「ローカル」に指定されているメッセージは、コンソールおよびリモートクライアント全てに表示されます。

ただし、システム管理者の確認が必要となるメッセージについては、ユーザを限定して表示を行います。メッセージの表示は、原則としてコンソールに対して行いますが、ログオンユーザがリモートクライアントのみの場合は、最初に検出されたアクティブなログオンユーザとなります。

対象となるメッセージは以下の通りです。

- ・ 接続UPSが設定されていない場合の警告メッセージ
- ・ UPSとの通信異常が発生した場合のシャットダウン確認メッセージ
(UPSとの通信異常が発生した場合に、シャットダウンを行う設定の場合のみ)

イベントビューアのシステムログについて

Windows Vista以降のOSにSANUPS SOFTWAREをインストールした時にイベントビューアのシステムログに以下のエラーログが残る場合があります。これは、Windows Vista以降、対話型サービスが推奨されなくなったことによりですが、動作に影響はございませんので無視してください。

ログの名前: System

ソース: Service Control Manager

イベント ID: 7030

タスクのカテゴリ: なし

レベル: エラー

キーワード: クラシック

説明: SGUPSSetviceサービスは対話型サービスとしてマークされています。

システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。

このサービスは正常に機能しない可能性があります。

Windows 8、Windows Server 2012 をご使用になる場合の制約事項

Windows 8、および Windows Server 2012では、従来のデスクトップ環境に加えて、アプリ環境（モダンUI環境）があります。

SANUPS SOFTWAREは、アプリ環境には対応していませんので、アプリ環境を使用している場合は、ポップアップメッセージを表示することはできません。

ただし、デスクトップ環境を使用している場合は、ポップアップメッセージは表示されます。

アプリ環境で使用している場合も、**SANUPS SOFTWARE**からのシャットダウンは問題なく行われます。